

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 97

## モンテネグロが描いた ニジンスキー

～ 劇場実験「蘇るバレエ・リュス」特別展 ～

会期 / 2023年12月14日(木) ～ 2024年3月10日(日)  
(※ 休館日はwebでご確認ください)

企画・構成 / 関典子 (薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2024年は、当コレクションの収集者である薄井憲二氏(1924～2017)の生誕100周年にあたります。この記念すべき年の初め(1月20日)に、京都芸術劇場・春秋座にて、劇場実験「蘇るバレエ・リュス：薄井憲二バレエ・コレクションの同時代的／創造的探究」を開催いたします。

今から約100年前、1909～1929年のたった21年間だけ存在した奇跡のカンパニー「バレエ・リュス」。当時最先端の音楽家、美術家、振付家、ダンサーが結集して、前衛的な数々の作品を発表。総合芸術としてのバレエの力を大いに示し、現代へと至るバレエの革新の道を切り拓きました。

舞台上に直接かかわったメンバーだけでなく、多くの美術家たちが、バレエ・リュスの魅力に惹き寄せられました。彼らが描き、映し出した作品の数々は、時に妖艶に、時に躍動感あふれるダンサーの姿を、今も生き生きと伝えています。

本展では、劇場実験のフライヤーに使用した、メキシコの画家ロベルト・モンテネグロの版画をご覧ください。劇場実験と常設展、どうぞあわせて、お楽しみください。

### ロベルト・モンテネグロ (Roberto Montenegro 1885-1968)

メキシコの画家。サン・カルロ美術学校で学び、20代の頃、奨学金を得て渡欧、パブロ・ピカソ、フアン・グリスらによるキュビズムと遭遇。1907～1914年はパリに滞在、シャトレ座やシャンゼリゼ劇場にて、ワツラフ・ニジンスキー、タマラ・カルサヴィナらが出演し、アレクサンドル・ブノワやレオン・バクストが美術を担当したバレエ・リュスの公演を鑑賞。後に「彼らはパリのファッションに革命をもたらした」と、回想している。

幻想と装飾を持ち味とした独自の作風で、限定書籍(画集)『ワツラフ・ニジンスキー：黒・白・金で彩られた作品の芸術的解釈』(1913)を出版。後に、メキシコ画壇、フレスコ画の創始者として、自ら民芸品を収集するなど、祖国の文化に貢献。油彩・水彩・版画・肖像画・挿絵のみならず、随筆・詩作においても才能を発揮し、ラテンアメリカを代表する芸術家として幅広く活躍した。

### ロベルト・モンテネグロ／限定書籍(画集)／『ワツラフ・ニジンスキー：黒・白・金で彩られた作品の芸術的解釈』(1913)

イギリスの評論家、著述家、書店主、出版者であり、20世紀の最も重要な舞踊史家の一人、シビル・ウィリアム・ボーモントの店を訪れたモンテネグロが、ボーモントに自分のデザインを見せたことが、この画集の出版に繋がった。

初版は500部限定。10作品からなるフォリオ(『レ・シルフィード』『薔薇の精』『ル・カルナヴァル』『シェエラザード』『ダフニスとクロエ』『青い神』『ペトルーシュカ』『牧神の午後』『遊戯』『レ・オリエンタル』)。1916～1917年のアメリカ横断公演プログラムの表紙に『シェエラザード』が使われるなど、モンテネグロは、バレエ・リュスの活動にも貢献した。

黒・白・金というシンプルな配色と細密な線や、デフォルメされた表情が特徴的。モンテネグロの眼を通したニジンスキー像が感じられる。

### ワツラフ・ニジンスキー (Vaslav Nijinsky 1889-1950)

「跳んだまま地上に戻ってこなかった」と称されるほどの驚異の跳躍をみせた伝説のダンサー。1909年の第1回パリ公演からバレエ・リュスに参加、一躍スターとなった。振付家として『牧神の午後』(1912)『遊戯』『春の祭典』(1913)を発表、初演時には大騒動を巻き起こした。1913年、団長セルゲイ・ディアギレフが不参加の南米公演中に結婚し、解雇される。その後一時的に復帰したもの、1917年の南米公演がバレエ・リュスで最後の舞台となった。次第に狂気にとられるようになり、1950年、療養中のロンドンにて没。



### 出展資料

- ◆ AB-19 限定書籍(画集) / ロベルト・モンテネグロ / 『ワツラフ・ニジンスキー：黒・白・金で彩られた作品の芸術的解釈』 / イギリス / 1913年 (『シェエラザード』『ペトルーシュカ』)
- ◆ PRBROF-09 バレエ・リュス公式プログラム / アメリカ横断公演 / 1916～1917年 (『シェエラザード』)

### 主な参考文献

- ◆ 薄井憲二バレエ・コレクション特別展「バレエ・リュスと美術家たち」リーフレット / 公益財団法人 尼崎市文化振興財団 / 編集・文責・デザイン：藤巻佐和子 / 監修：関典子 / 2020年
- ◆ 芳賀直子 / 『ICON (アイコン) : 伝説のバレエ・ダンサー、ニジンスキー妖像』 / 講談社 / 2007年



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用